

金珠狼



続 染色妻

その後の地味巨乳妻清水恵子 4

夫婦円満編

金珠狼

続 染色妻

その後の地味巨乳妻清水恵子 4

夫婦円満編



# 離婚届

令和 1年 5月 1日 届出

(宛先)

|          |              |         |                            |
|----------|--------------|---------|----------------------------|
| 氏名       | 清水 修二        | 住所      | 〒100-0001 東京都千代田区千代田 1-1-1 |
| 生年月日     | 昭和 32年 5月 1日 | 職業      | 会社員                        |
| 配偶者氏名    | 清水 花子        | 配偶者生年月日 | 昭和 30年 3月 10日              |
| 婚姻届受理年月日 | 昭和 32年 5月 1日 | 婚姻届受理場所 | 千代田区役所                     |

## 記入の注意

鉛筆や消えやすいインクで書かないでください。

配偶者の氏名欄には、戸籍のはじめに記載されている人の名前を書いてください。

妻は1歳でさしつかえありません。

そのほかに必要なもの 調停離婚のとき→調停調書の原本

審判離婚のとき→審判調書の原本と確定証明書

和解離婚のとき→和解調書の原本

協議離婚のとき→協議調書の原本と確定証明書

判決離婚のとき→判決調書の原本と確定証明書

| 証人 (協議離婚のときだけ必要です) |                            |
|--------------------|----------------------------|
| 氏名                 | 清水 花子                      |
| 生年月日               | 昭和 30年 3月 10日              |
| 住所                 | 〒100-0001 東京都千代田区千代田 1-1-1 |
| 職業                 | 会社員                        |



今年結婚4年目  
になる32歳の  
平凡な  
サラリーマンだ

俺の名前は  
清水 修二

ついこの間まで  
俺達夫婦の  
関係は円満  
だったのだが

何故なら  
嫁の不倫現場を  
ガッツリ目撃  
してしまった  
からである

クソッ……

俺はその日  
離婚届の前で  
真剣に  
悩んでいた

何で恵ちゃんが  
あんな爺と  
……!?



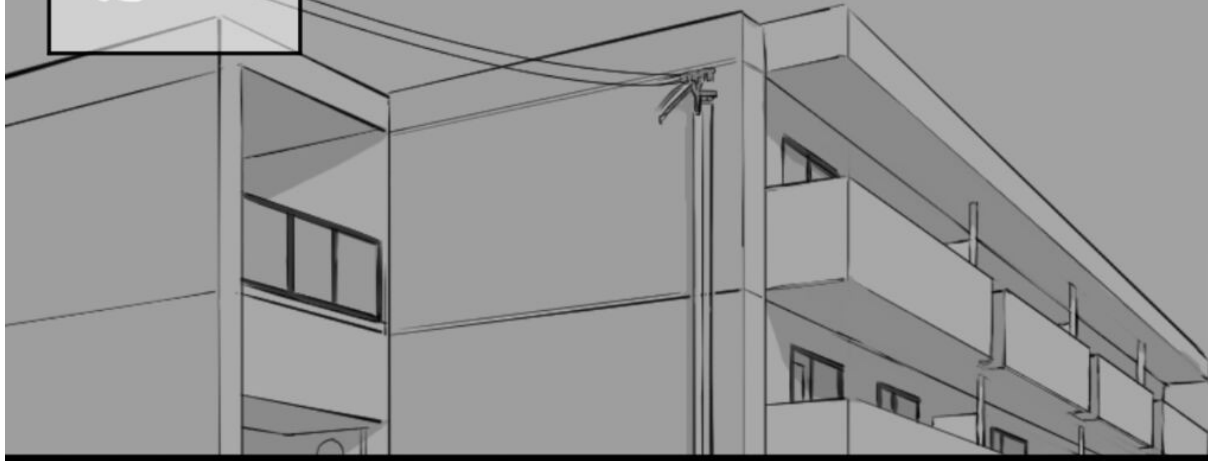
その時まで  
嫁以外の経験が  
無かった俺は



腹いせに風俗等で  
色んな女を  
抱いてみたが



全く満足感はなく  
ただ虚無感ばかり  
募って行くのだった



そんな感じで  
嫁への愛情は段々と  
薄れていき



ついには  
夫婦の会話も  
最近ほぼゼロに  
なっていた





彼女は見慣れない  
紫の下着を着け  
そこに立っていた



恵ちゃん  
それ…？

は?!  
え!?

その姿に心底  
驚いた俺は

彼女と冷戦中  
なのも忘れ  
思わず  
問いたでした



う…

修くん…

妻はそれに  
答える間もなく  
俺に近寄り



爺との不倫に対して  
であろう弁明を  
始めた

…ごめんなさい  
…

修くんは全然  
悪く無いの

悪いのは本当に  
全部私…

離婚されても  
全然仕方無いと  
思ってる

ただ…  
これだけは言わせて…

本当に私が—  
私が愛してるのは…

修くん唯一人なの

それだけ  
どうしても  
伝えたくて…

…恵ちゃん

そして

俺たち夫婦は  
数か月ぶりに  
唇を重ねたのだった

チュ...

その瞳には  
大粒の涙が  
浮かんていた

内心途惑いながらも  
彼女の方を見ると

修クン...  
ごめんね...  
私こんな事しか  
できなくて...

この下着も  
喜んでもらえる  
かなって...

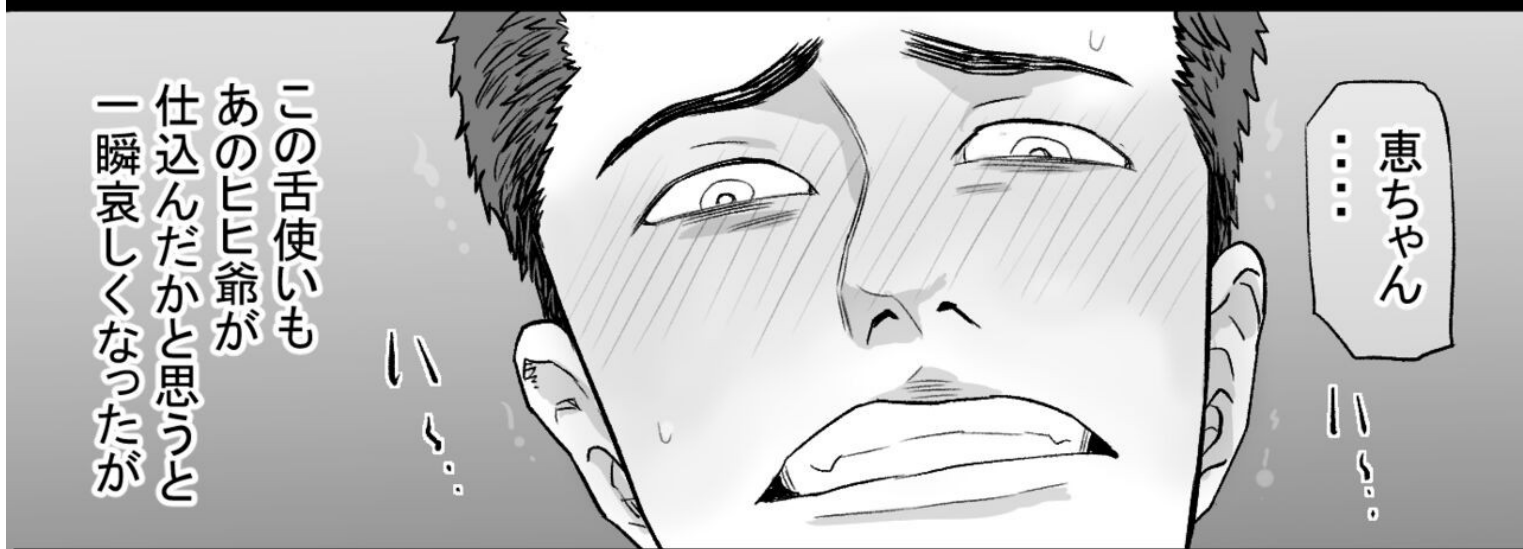
そう言って妻は  
俺の寝間着を  
脱がし



俺の乳首を  
責め始めた

レロ..

ッ...



恵ちゃん

...

い...

い...

この舌使いも  
あのヒビ爺が  
仕込んだかと思うと  
一瞬哀しくなったが



クッ...!!

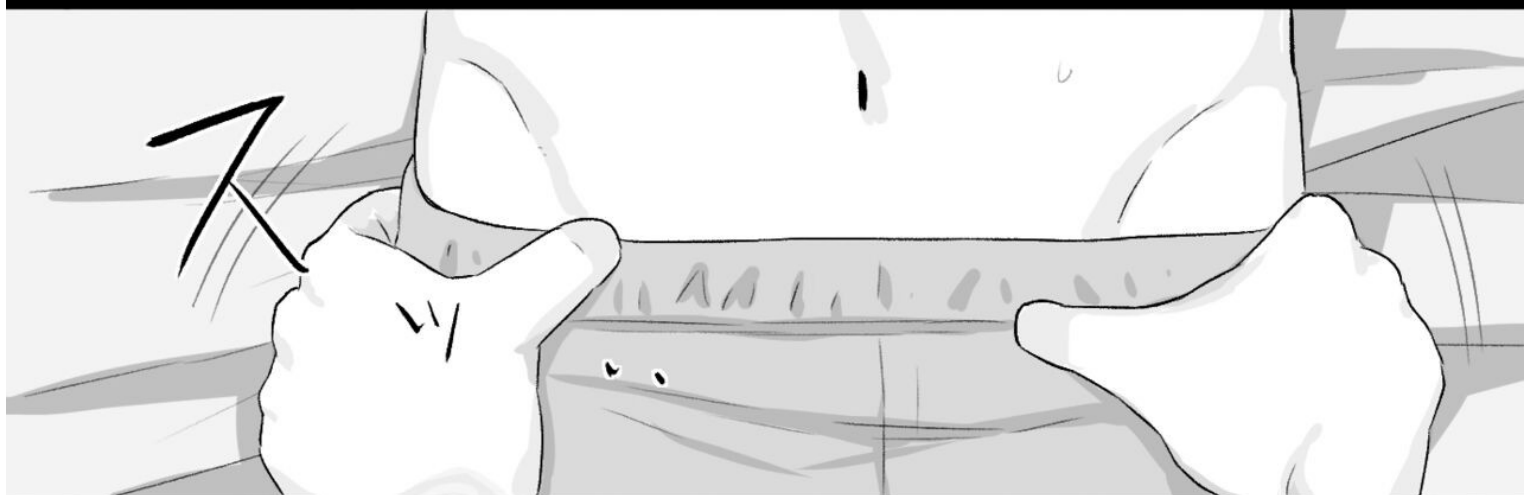
ワ..

ワ..

そんな事を  
一瞬で忘れる位  
その責めは  
刺激的だった

ゼン





そして

彼女は心底嬉しそうに  
俺のチンポを咥えこんだ



この数か月

ズルルルル..

俺はプロも含め

色んな女性に  
フェラしてもらったが

グッ..

おそらく  
あのヒビ爺に  
仕込まれたであろう  
この彼女のフェラが

クッ...

ごめん..  
もう出る..

ゼン..

スッゲ...

一番気持ち良かった

ゼン..

ズン..

ズン..

ズン..

ズン..

勢いあまって  
思わず彼女の口内に  
ブチ撒けてしまった

オ。。

う。。  
ごめん。。。今  
ティッシュを。。

ゴクン

しかし彼女は  
その精液を

躊躇なく飲み込んで  
しまった

ふふ。。

一杯出たね♡

俺はそれを  
嬉しいと思いつつも

ハハハハ。。

わ。。

正直若干  
引いてしまった  
のだった

その後休憩を挟み



俺の希望で

人生初の  
シックスナインをする

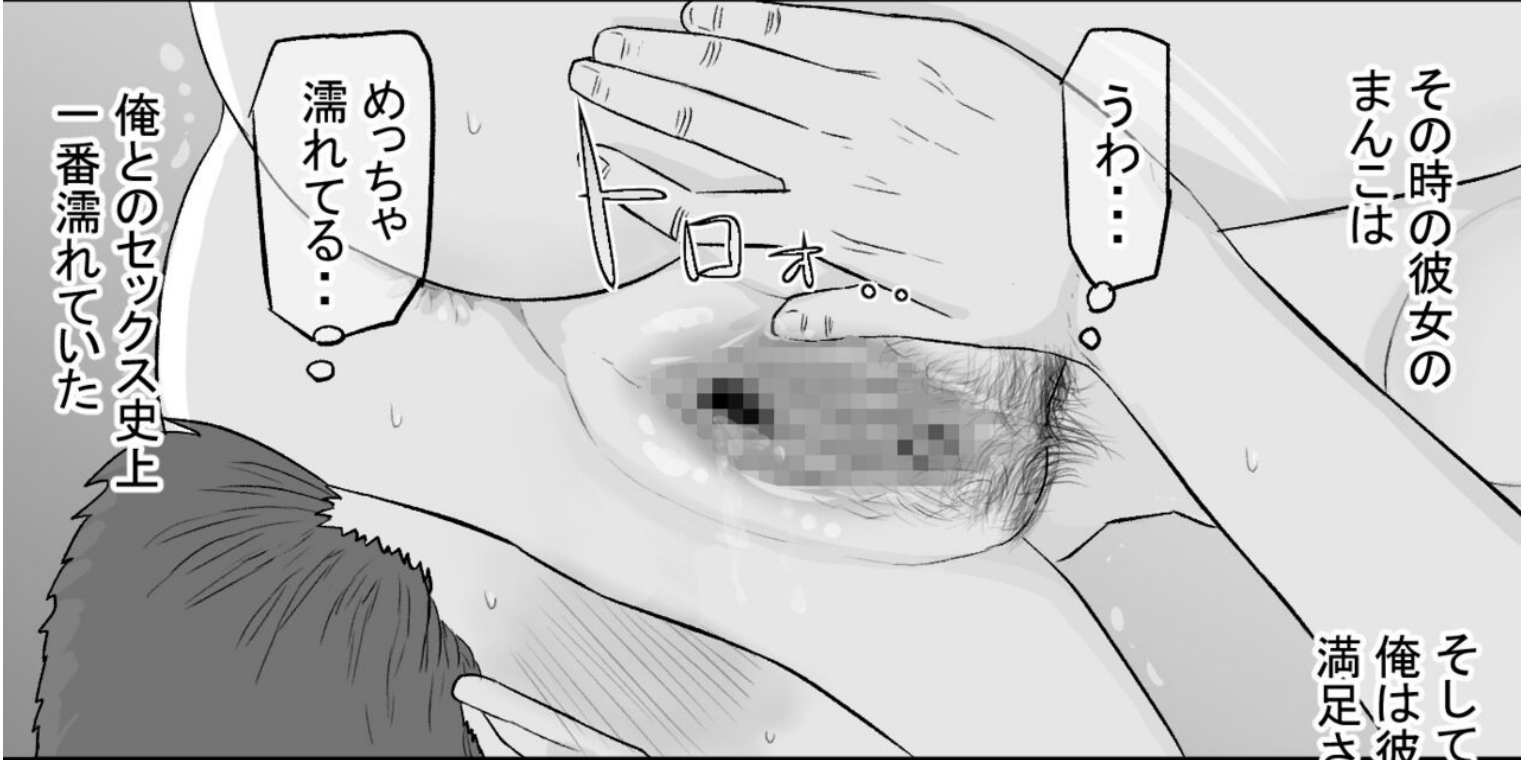


その時の彼女の  
まんこは

うわ...

めっちゃ  
濡れてる...

俺とのセックス史上  
一番濡れていた



そして  
俺は彼女を  
満足させるべく

ガムシヤラに  
クニニをした  
のだった



それから  
しばらく

け…  
恵ちゃん

本当に  
良いの？

うん…

生でいいよ♡









にうして

俺は初めて  
彼女に中出しした

っ……!

せろ……



しばらく  
余韻を楽しんだ後

肉棒を引き抜くと

彼女の性器から  
ドロリと  
精液が溢れ出た

この時彼女は幸せそうに  
俺に微笑みかけた

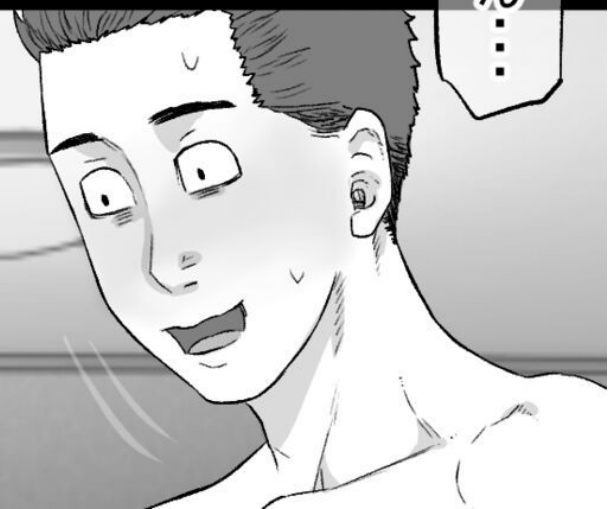
修クン…  
頑張ったね♡

恵ちゃん…

すごい  
気持ち良かったよ♡

この時にはもう  
不倫の事など  
頭に残っておらず  
彼女と関係を  
改善できたことが  
ただ嬉しかった

ちなみに離婚届は  
彼女に見つかる前に  
破いて捨てた



それから1か月——

俺たち夫婦は  
今までの溝を埋める  
かの様に

ほぼ毎日セックスを  
していた

お互い愛し合い  
間違いなく  
幸せな結婚生活だった

——のだが  
俺はある2つの不安が  
どうしても頭から  
離れなかった

一つは  
これまでの  
セックスで  
彼女を一回も  
絶頂させられ  
なかった事

そして  
もう一つは

妻の不倫相手である  
ヒヒ爺の存在だ



一時期本気で  
訴えようと思ったが  
妻の立場を考えると

下手に大事にする  
訳にはいかなかった  
のでそのまま放置  
していた

そんなある休日  
妻が用事で家を空けたので  
俺は自宅のパソコンで  
嫌な予感を感じつつも



例の素人カップルの  
エロ動画投稿サイトを  
覗いてみた

すると  
その予感通り

やっぱり……

例のヒヒ爺が投稿した  
であろう



妻の新作エロ動画が  
アップされていた



恵ちゃん…

動画内の彼女は  
例の紫の派手な  
下着を着けていた

最近どーしたの  
ケーコちゃん？

グイ

…

誘っても全然  
来てくれない  
じゃーんw

旦那さんと  
仲直りしたw？

おw

ハニ

やめて下さい  
…

今日だって  
来たくなかった  
けど

あなたが  
来なきゃ  
関係を皆に  
バラすって…



私が愛してるのは  
本当に……  
夫だけなんです……

それが今ようやく  
関係が修復  
できそうなんです

お願いします……  
本当にこれっきりに  
してくれませんか……？

妻の涙ながらの  
俺を思つての  
懇願――

俺も思わず  
泣きそうに  
なってしまう

恵ちゃん……！

ヒヒ爺は彼女の涙も  
全く意に介さず  
ギン.

だが

ふうん……

ま  
一発やってから  
考えるよ♡

その凶暴な  
肉棒を  
放り出した

ホッラ  
ケーコちゃんの  
大好物

ツ……

久しぶりの  
極大おちんぽ  
だよ♡

ケーコちゃん

ボクのちんぽの  
臭い嗅ぐと

エッチなスイッチ  
入るもんね♡

やせ我慢  
しなくていいよw

う……

やめっ……

ほらww  
もう目が  
トロンとしてるw

ハッ♡

っ……

違う……



それじゃ  
...



下着脱いで  
四つん這い  
になってw

は...  
い...  
は...  
い...

ダメ...

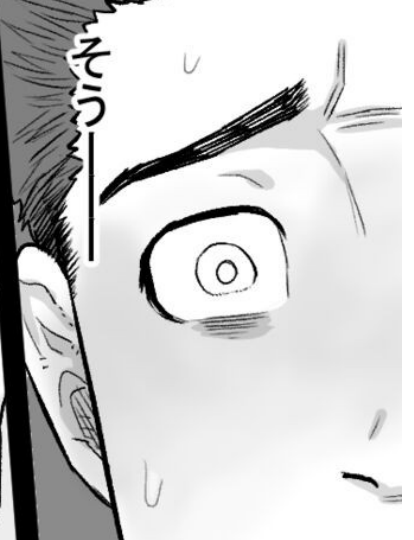
何も  
考えられない  
...



おほw  
ケーコちゃんの  
マンコ凄い」と  
なってるじゃんw

...  
...  
これで...

良いですか...?



そう...

彼女のアソコは  
俺どセックスした  
どんな時よりも

又

チ  
オ  
...

ヒヒ爺のチンポを  
嗅いだだけの方が  
ビチヨビチヨに  
濡れていた



うひょろ♡  
久々のケーコ  
ちゃんのまんこ

トロトロで  
めっちゃ  
美味そう♡

せのっ♡

せのっ♡

せのっ♡

ひゃあ♡

じゃ  
イタダキまゝ♡

ズズズ

どお？  
気持ちいい？w

ケーコちゃん  
アナル舐めながら  
まんこホジるの  
好きだったでしょ？

せのっ♡

ロオ..♡

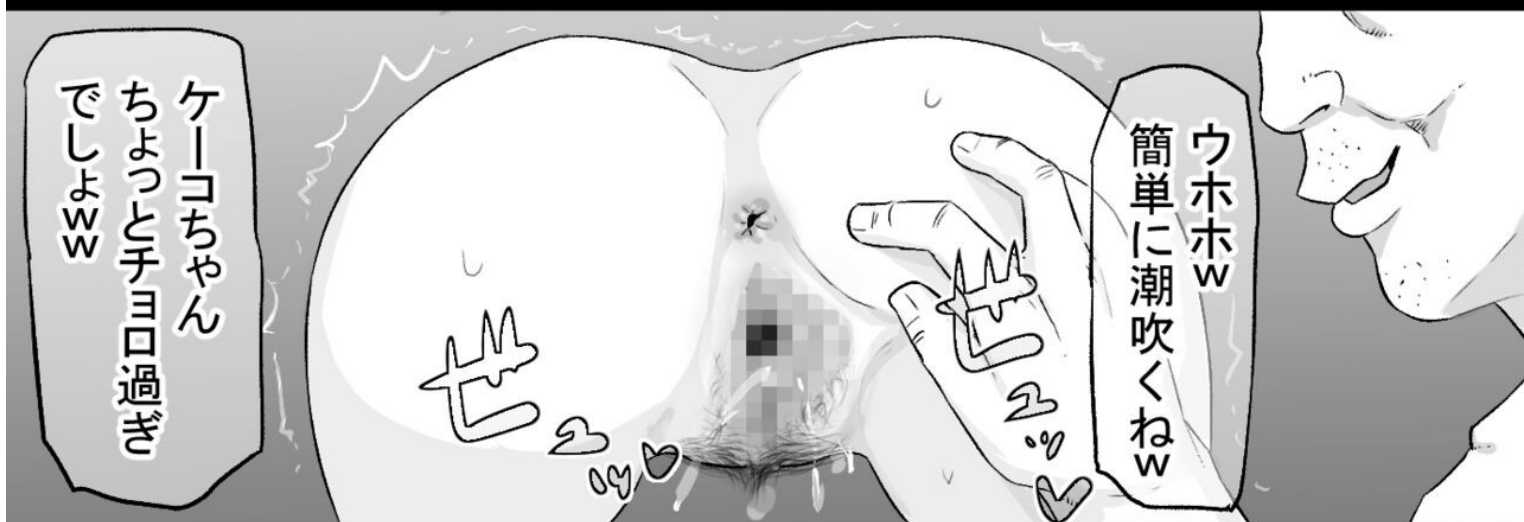
せのっ♡

グググ





こうして彼女は  
ヒビ爺の手によって  
簡単に絶頂した



うほっw  
簡単に潮吹くねw

ケーコちゃん  
ちよつとチヨロ過ぎ  
でしょww



俺が決して  
できなかった  
最愛の妻の絶頂を

いとも簡単に  
実行できるこの  
60近い爺に  
対して俺は

同じ男として  
圧倒的な  
敗北感を感じ  
ゲロを吐きそう  
になった





この時の彼女の  
貌は別人の様に  
色気があつた



そしてもう  
挿入が我慢  
できないのか



チンポをしゃぶりながら  
自分のアソコを  
イジリ始めた

すっごい  
ガツツキぶり  
だねw

ケーコちゃん  
そんなに  
溜まってたの？w

ひんひん

ダメ...  
指...  
止まらない...♡



彼女の手の動きは  
快楽を求めるために♡

激しさを増し  
やがて

ジュポ  
ジュポ

あ…♡  
あ…♡

ダメ…  
もう♡

ゆのゆの…

いいね♡  
ちゃんと  
飲んでねw



妻とヒヒ爺は  
同時に果てた



それから  
場面は変わり

じゃあ  
ケーコちゃん

いっしょ♡

修くん…  
本当にゴメン  
なさい…

いっしょ♡

店長の…  
ぶつといチンプを  
…

私のおまんこ  
にブチ込んで  
下さい…♡

妻は蕩けた雌の貌で  
アソコを拡げ  
ヒヒ爺のちんぽをねだった

ぽあ…♡

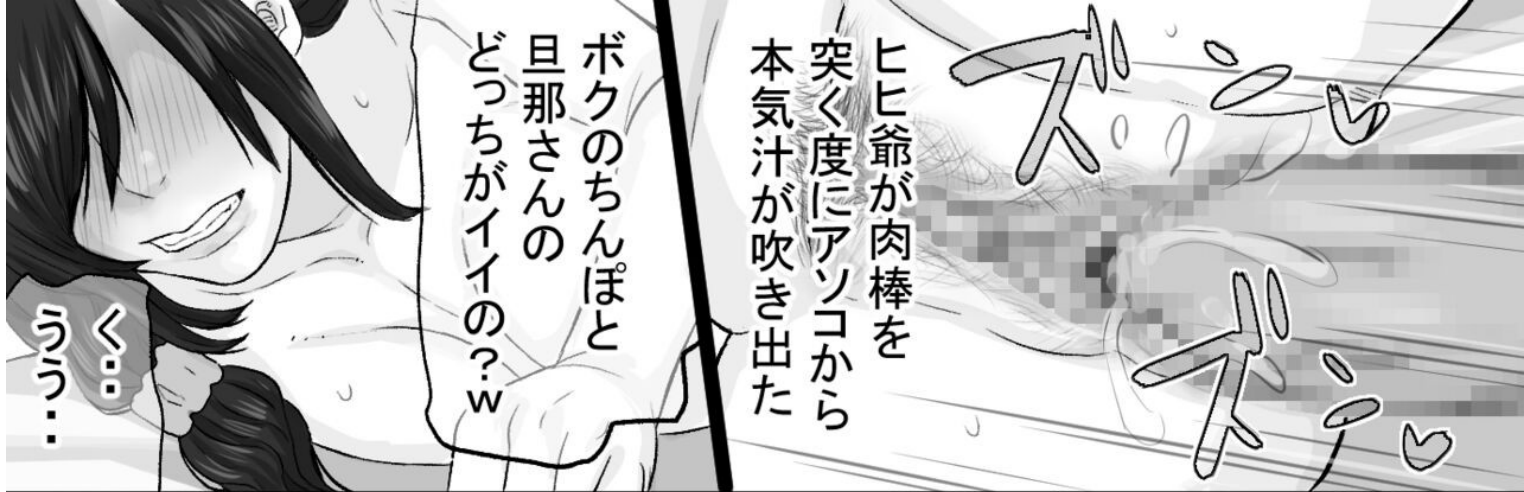
く

いつもの  
おねだり  
やってみようか♡









ボクのちんぽと  
旦那さんの  
どっちがイイの？w

ヒヒ爺が肉棒を  
突く度にアソコから  
本気汁が吹き出た

く…  
うっ…



ゴメン…  
修クン…  
私っ…

この人のおちんちんに  
逆らえないっ…

ハ…♡

ハ…♡

て…  
店長の  
ですっ♡

その時ふと  
知り合った  
学生の時から

結婚して4年  
経った今までの  
妻の顔が  
走馬灯のように  
頭をよぎったが

そののどれにも  
当てはまらない  
この彼女の表情から

俺は何故か  
目が離せなかった

やあ

せいのこ

おちんちん  
スゴイ

そして—  
何故か俺は

ゴク

この表情が  
今までで一番  
美しいと  
感じてしまった

あーあー  
イクイク



俺が見惚れている  
間にもヒビ爺の  
ピストンは激しさを  
増していき

ひぐひぐ

せーの

ううう

じゃ  
中に出すよっw

は…♡  
はいい…♡

やがて

ズン



男は容赦なく  
俺の愛する妻に  
中出しした

そして肉棒を引き抜くと  
彼女の膣から

俺より遥かに濃い  
精子がドロリと  
溢れ出た

その後も当然  
絶倫である  
ヒヒ爺のセックスは  
続き

イイ♡  
♡です♡

おちん♡  
♡ちん♡  
♡イ♡  
♡イ♡

イ♡  
♡ク♡  
♡イ♡  
♡ク♡  
♡イ♡  
♡ク♡

イ♡  
♡イ♡  
♡ク♡  
♡ク♡  
♡イ♡  
♡ク♡  
♡イ♡  
♡ク♡

あ♡  
♡あ♡  
♡あ♡  
♡あ♡

セ♡  
♡ク♡  
♡イ♡  
♡ク♡  
♡イ♡  
♡ク♡

何度も妻を  
絶頂させられる  
度に

はあ  
スゴ



あ  
あ



今すぐ動画を消して  
目を背けたいくなるが

then:



心の奥底で  
俺は――

世

の

こ

♡♡♡

彼女のこの痴態を  
何度も見てみたい

――そう思ってしまった

サ

ニ

♡

自己最多の  
5回も才ナニをした

もしもし

その時スマホに  
見知らぬ番号から  
着信が来る

何故か嫌な予感するが  
電話を取ると

あゝ：  
もしもし  
旦那さんですか？

その相手は何と  
あのヒビ爺だった

初めまして  
小峠と申します♡

私の事  
分かりますよね？

いきなりで恐縮  
なんですが  
旦那さんに  
ちよつと提案が  
ありましてね……

続

金珠狼



続 染色妻

その後の地味巨乳妻清水恵子 4

夫婦円満編



# 離婚届

令和 1年 5月 1日 届出

(宛先)

|          |              |         |                            |
|----------|--------------|---------|----------------------------|
| 氏名       | 清水 修二        | 住所      | 〒100-0001 東京都千代田区千代田 1-1-1 |
| 生年月日     | 昭和 32年 5月 1日 | 職業      | 会社員                        |
| 配偶者氏名    | 清水 恵子        | 配偶者生年月日 | 昭和 30年 3月 10日              |
| 婚姻届受理年月日 | 昭和 32年 5月 1日 | 婚姻届受理場所 | 千代田区役所                     |

## 記入の注意

鉛筆や消えやすいインクで書かないでください。

配偶者の氏名欄には、戸籍のはじめに記載されている人の名前を書いてください。

妻は1歳でさしつかえありません。

そのほかに必要なもの 調停離婚のとき→調停調書の原本 裁判離婚のとき→審判書の原本と確定証明書

和解離婚のとき→和解調書の原本 協議離婚のとき→協議調書の原本と確定証明書

裁判離婚のとき→判決調書の原本と確定証明書

## 証人 (協議離婚のときだけ必要です)

|          |              |         |                            |
|----------|--------------|---------|----------------------------|
| 氏名       | 清水 修二        | 住所      | 〒100-0001 東京都千代田区千代田 1-1-1 |
| 生年月日     | 昭和 32年 5月 1日 | 職業      | 会社員                        |
| 配偶者氏名    | 清水 恵子        | 配偶者生年月日 | 昭和 30年 3月 10日              |
| 婚姻届受理年月日 | 昭和 32年 5月 1日 | 婚姻届受理場所 | 千代田区役所                     |



今年結婚4年目  
になる32歳の  
平凡な  
サラリーマンだ

俺の名前は  
清水 修二

ついこの間まで  
俺達夫婦の  
関係は円満  
だったのだが

何故なら  
嫁の不倫現場を  
ガッツリ目撃  
してしまった  
からである

クソッ……

俺はその日  
離婚届の前で  
真剣に  
悩んでいた

何で恵ちゃんが  
あんな爺と  
……!?





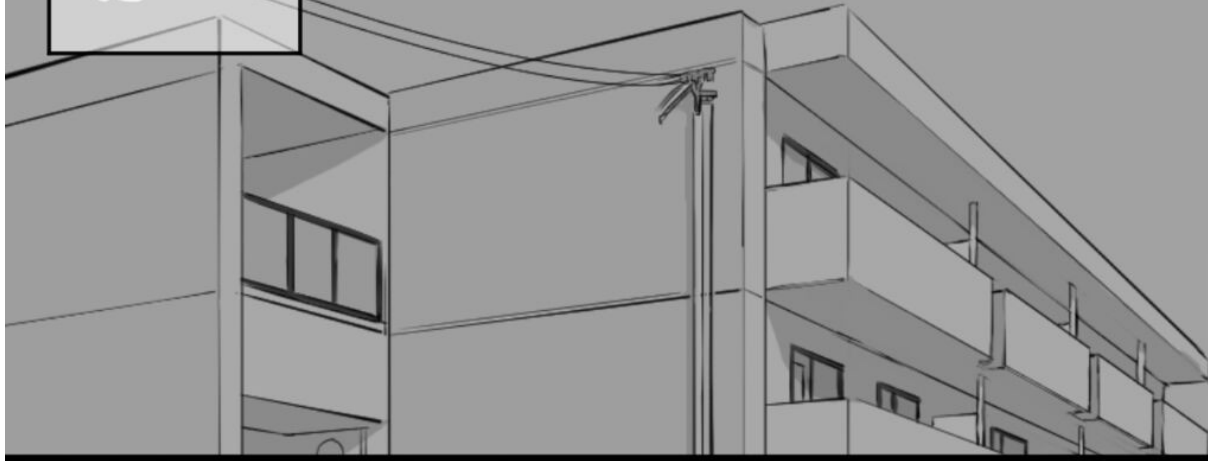
その時まで  
嫁以外の経験が  
無かった俺は



腹いせに風俗等で  
色んな女を  
抱いてみたが



全く満足感はなく  
ただ虚無感ばかり  
募って行くのだった



そんな感じで  
嫁への愛情は段々と  
薄れていき



ついには  
夫婦の会話も  
最近ほぼゼロに  
なっていた



彼女は見慣れない  
紫の下着を着け  
そこに立っていた



恵ちゃん  
それ…？

は?!  
え!?

その姿に心底  
驚いた俺は

彼女と冷戦中  
なのも忘れ  
思わず  
問いたでした



う…

修くん…

妻はそれに  
答える間もなく  
俺に近寄り



爺との不倫に対して  
であろう弁明を  
始めた

…ごめんなさい  
…

修くんは全然  
悪く無いの

悪いのは本当に  
全部私…

離婚されても  
全然仕方無いと  
思ってる

ただ…  
これだけは言わせて…

本当に私が—  
私が愛してるのは…

修くん唯一人なの

それだけ  
どうしても  
伝えたくて…

…恵ちゃん

そして



俺たち夫婦は  
数か月ぶりに  
唇を重ねたのだった

チュ...

その瞳には  
大粒の涙が  
浮かんでいた

内心途惑いつつも  
彼女の方を見ると

修クン...  
ごめんね...  
私こんな事しか  
できなくて...

この下着も  
喜んでもらえる  
かなって...

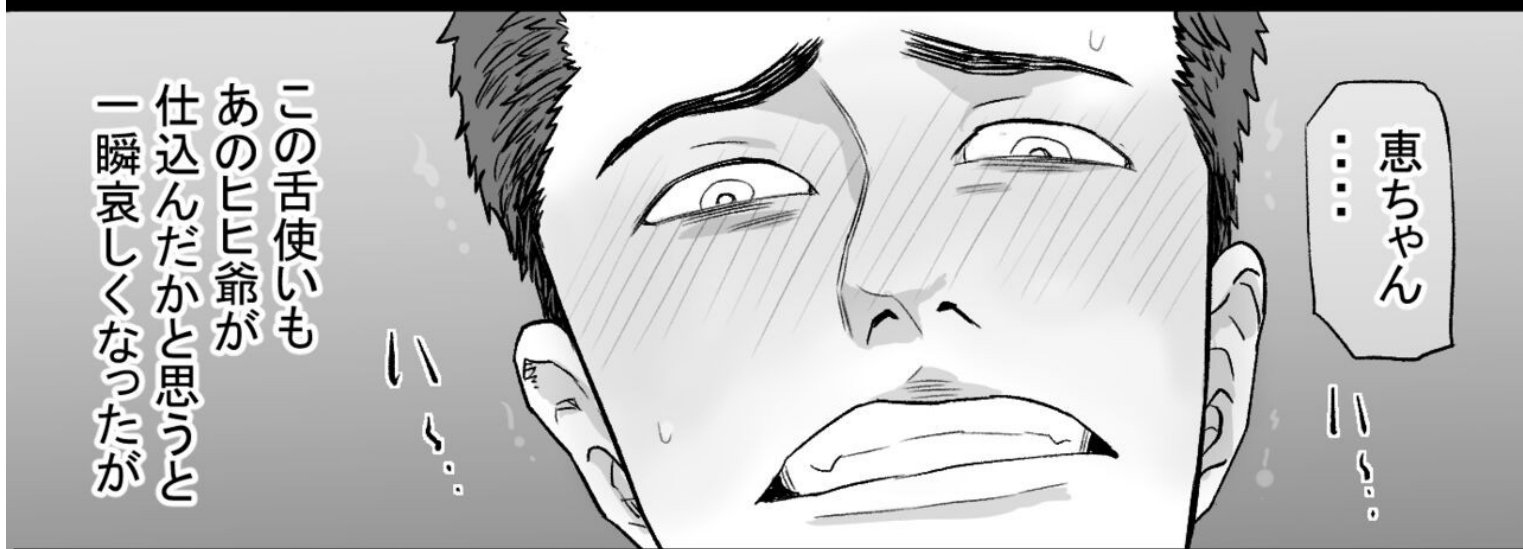
そう言って妻は  
俺の寝間着を  
脱がし



俺の乳首を  
責め始めた

レロ..

ッ...



恵ちゃん

...

い..

この舌使いも  
あのヒビ爺が  
仕込んだかと思うと  
一瞬哀しくなったが



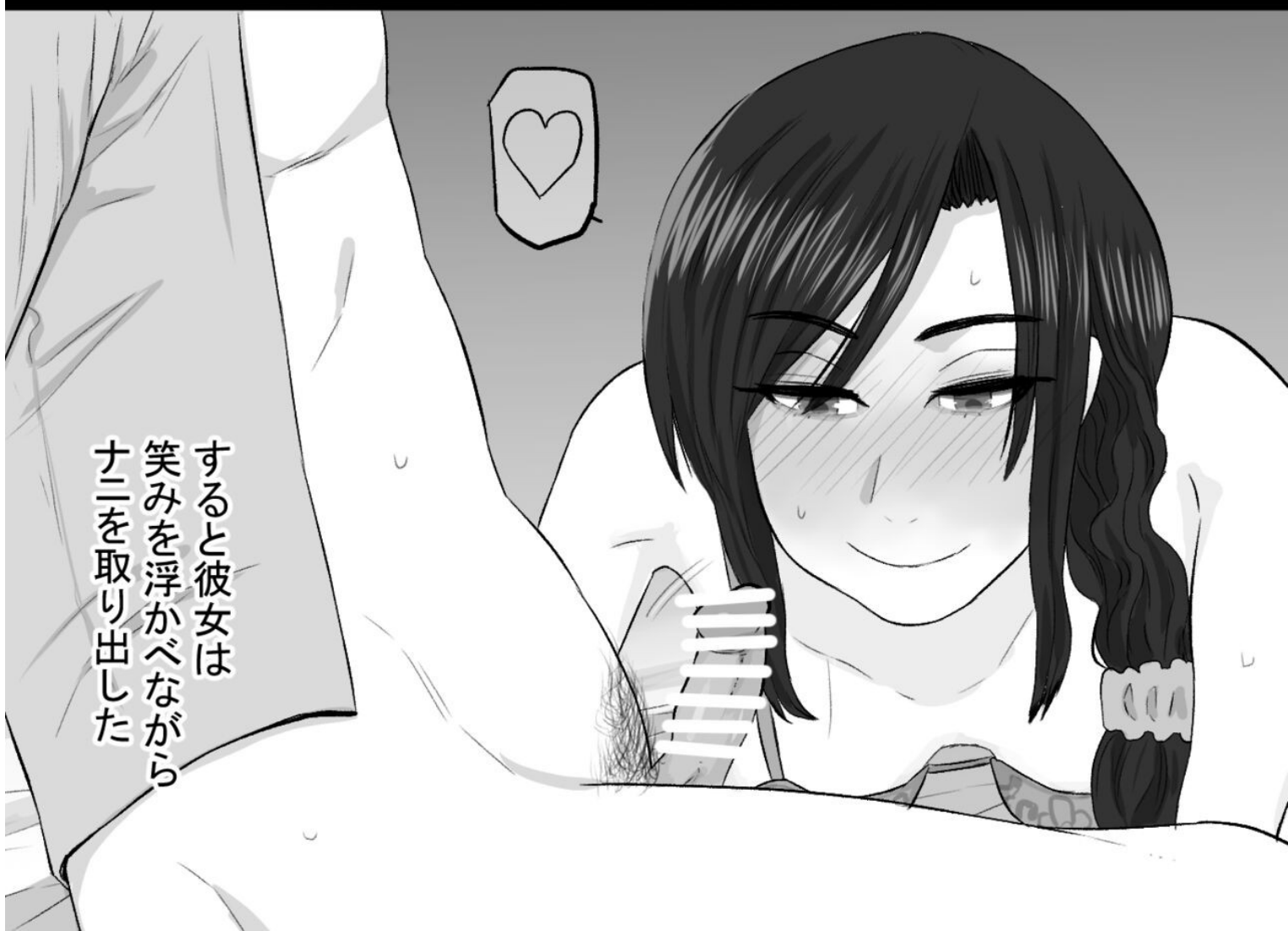
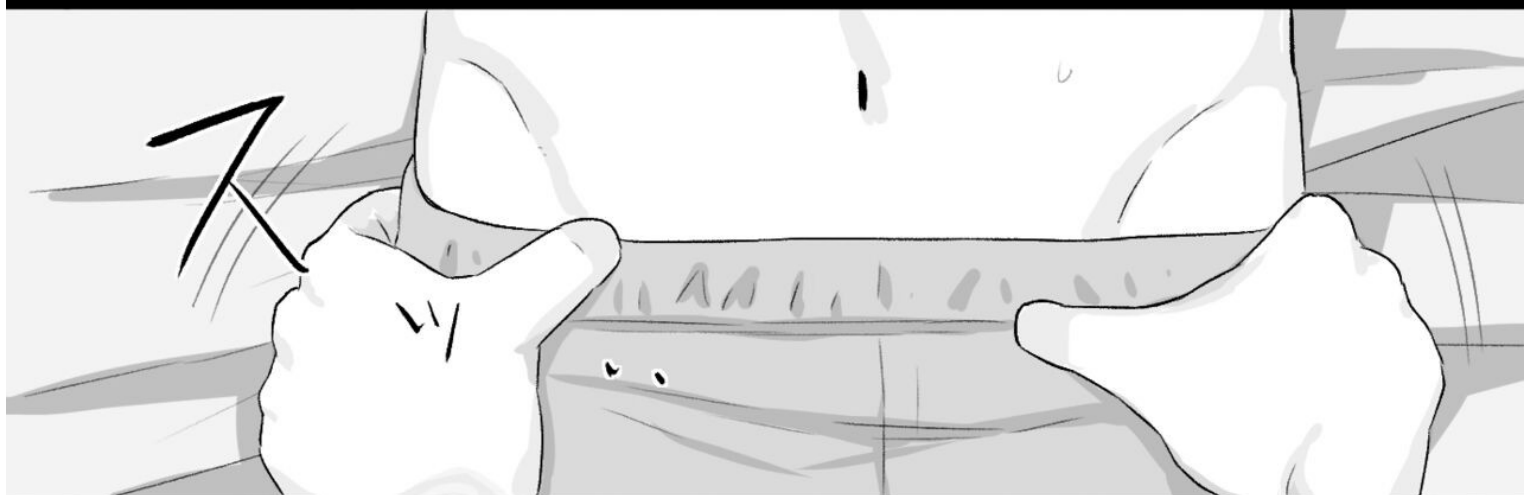
クッ...!!

77..

77..

そんな事を  
一瞬で忘れる位  
その責めは  
刺激的だった

ゼン



そして

彼女は心底嬉しそうに  
俺のチンポを咥えこんだ





この数か月

ズルルルル..

俺はプロも含め

色んな女性に  
フェラしてもらったが

グアイーッ..

おそらく  
あのヒビ爺に  
仕込まれたであろう  
この彼女のフェラが

クッ...

ごめん..  
もう出る..

ゼッ..

スッゲ...

一番気持ち良かった

ゼッ..

ズルルルル..

グアイーッ..

ズルルルル..

グアイーッ..

ズルルルル..

勢いあまって  
思わず彼女の口内に  
ブチ撒けてしまった

オ。。

ごめん……今  
ティッシュを……

ゴクン

しかし彼女は  
その精液を

躊躇なく飲み込んで  
しまった

ふふ……

一杯出たね♡

俺はそれを  
嬉しいと思いつつも

ハ・ハ・ハ・

わ……

正直若干  
引いてしまった  
のだった

その後休憩を挟み

俺の希望で

人生初の  
シックスナインをする



その時の彼女の  
まんこは

うわ...

めっちゃ  
濡れてる...

俺とのセックス史上  
一番濡れていた



そして  
俺は彼女を  
満足させるべく

ガムシヤラに  
クニニをした  
のだった



それから  
しばらく

け…  
恵ちゃん

本当に  
良いの？

うん…

生でいいよ♡







このセックスで

俺が間違いなく  
言える事は

これが俺の人生で  
一番気持ちのいい行為である  
と言う事だ

ズニ

ズニ

ズニ

ツ...

ハニニ

恵ちゃん  
っ...  
俺っ...!!

...  
良いよ♡

中で  
出して♡

にうして

俺は初めて  
彼女に中出しした

っ……!

せろ……



しばらく  
余韻を楽しんだ後

肉棒を引き抜くと



彼女の性器から  
ドロリと  
精液が溢れ出た

この時彼女は幸せそうに  
俺に微笑みかけた

修クン…  
頑張ったね♡

いゝ♡

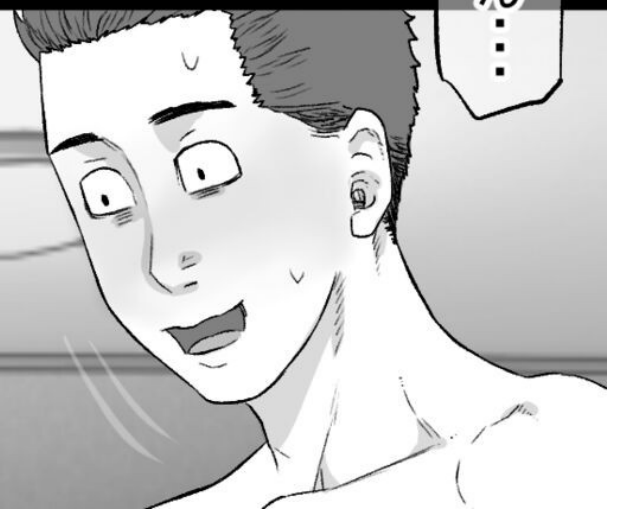
いゝ♡

すごい  
気持ち良かったよ♡

恵ちゃん…

この時にはもう  
不倫の事など  
頭に残っておらず  
彼女と関係を  
改善できたことが  
ただ嬉しかった

ちなみに離婚届は  
彼女に見つかる前に  
破いて捨てた





それから1か月——

俺たち夫婦は  
今までの溝を埋める  
かの様に

ほぼ毎日セックスを  
していた

お互い愛し合い  
間違いなく  
幸せな結婚生活だった

——のだが  
俺はある2つの不安が  
どうしても頭から  
離れなかった

一つは  
これまでの  
セックスで  
彼女を一回も  
絶頂させられ  
なかった事

そして  
もう一つは

妻の不倫相手である  
ヒヒ爺の存在だ



一時期本気で  
訴えようと思ったが  
妻の立場を考えると

下手に大事にする  
訳にはいかなかった  
のでそのまま放置  
していた

そんなある休日  
妻が用事で家を空けたので  
俺は自宅のパソコンで  
嫌な予感を感じつつも



例の素人カップルの  
エロ動画投稿サイトを  
覗いてみた

すると  
その予感通り

やっぱり……

例のヒヒ爺が投稿した  
であろう



妻の新作エロ動画が  
アップされていた

恵ちゃん…

動画内の彼女は  
例の紫の派手な  
下着を着けていた

最近どーしたの  
ケーコちゃん？

グイ

…

誘っても全然  
来てくれない  
じゃーんw

旦那さんと  
仲直りしたw？

おw

ハニ

やめて下さい  
…

今日だって  
来たくなかった  
けど

あなたが  
来なきゃ  
関係を皆に  
バラすって…



私が愛してるのは  
本当に……  
夫だけなんです……

それが今ようやく  
関係が修復  
できそうなんです

お願いします……  
本当にこれっきりに  
してくれませんか……？

妻の涙ながらの  
俺を思つての  
懇願――

俺も思わず  
泣きそうに  
なってしまう

恵ちゃん……！

ヒヒ爺は彼女の涙も  
全く意に介さず  
ギン、

ふうん……

ま  
一発やっつてから  
考えるよ♡

その凶暴な  
肉棒を  
放り出した



ホッラ  
ケーコちゃんの  
大好物

ツ……

久しぶりの  
極大おちんぽ  
だよ♡

ケーコちゃん

ボクのちんぽの  
臭い嗅ぐと

エッチなスイッチ  
入るもんね♡

やせ我慢  
しなくていいよw

う……

やめっ……

ほらw  
もう目が  
トロンとしてるw

っ……

違っ……



それじゃ  
...



下着脱いで  
四つん這い  
になってw

.....  
はい.....

ダメ.....

何も  
考えられない  
.....

おほw  
ケーコちゃんの  
マンコ凄い」と  
なってるじゃんw



.....  
これで.....

良いですか.....?



そう.....

彼女のアソコは  
俺どセックスした  
どんな時よりも



ヒヒ爺のチンポを  
嗅いだだけの方が  
ビチヨビチヨに  
濡れていた

うひょろ♡  
久々のケーコ  
ちゃんのまんこ

トロトロで  
めっちゃ  
美味そう♡

せのっ♡

せのっ♡

せのっ♡

ひゃあ♡

じゃ  
イタダキまっす♡

ススス...

どお？  
気持ちいい？w

ケーコちゃん  
アナル舐めながら  
まんこホジるの  
好きだったでしょ？

せのっ♡

ロオ...♡

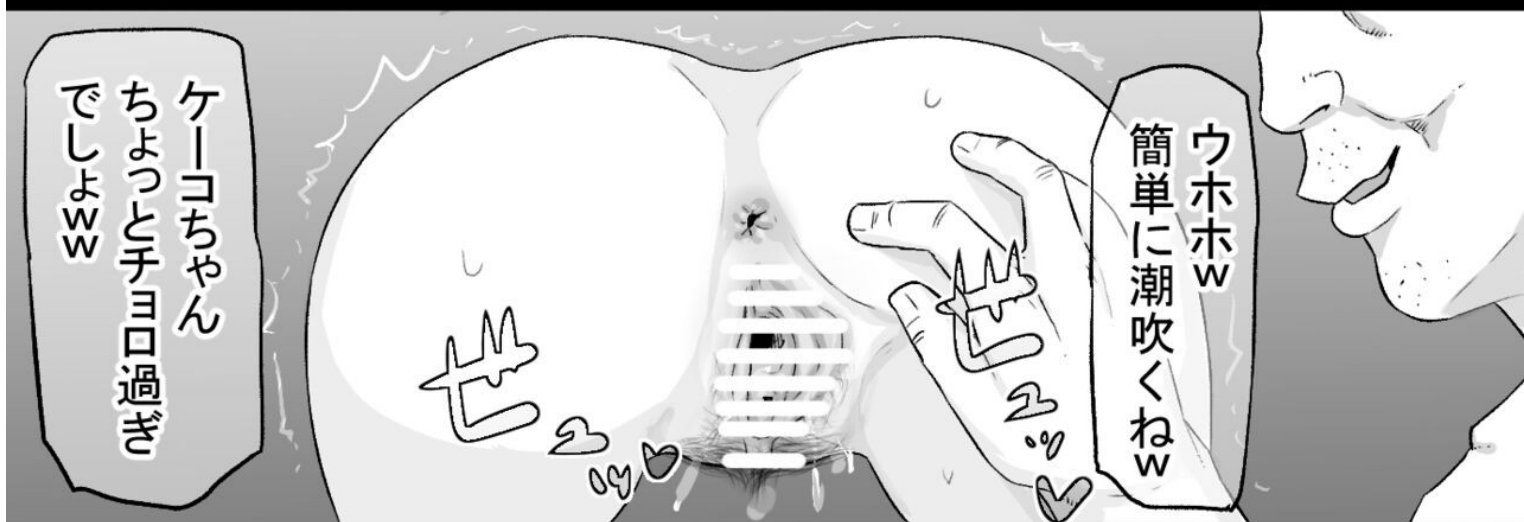
せのっ♡







こうして彼女は  
ヒビ爺の手によって  
簡単に絶頂した



俺が決して  
できなかった  
最愛の妻の絶頂を

いとも簡単に  
実行できるこの  
60近い爺に  
対して俺は

同じ男として  
圧倒的な  
敗北感を感じ  
ゲロを吐きそう  
になった

次はケーコちゃん  
の番ね♡

あ

ほら早くw  
啜えて啜えてw

ギン

絶頂して更にスイッチの  
入った彼女は

完全な雌の表情で  
ヒヒ爺のチンポを  
啜えた

ん。。

スチ

フ

。。

は。。あ。。

すごいエッチな  
臭い。。。。

やつぱり  
カズ君のと  
全然違う。。。。

パンパンに張って  
脈打ってる。。♡

。。。。

この時の彼女の  
貌は別人の様に  
色気があった



そしてもう  
挿入が我慢  
できないのか

せつ…

せつ…

チンポをしゃぶりながら  
自分のアソコを  
イジリ始めた

チュン♡

チュン♡

すっごい  
ガツツキぶり  
だねww  
ケーコちゃん  
そんなに  
溜まってたの?w

ひんひん♡

ダメ…  
指…  
止まらない…♡



おっおっ♡

おっおっ♡

ズッ♡

彼女の手の動きは  
快楽を求めるために♡

激しさを増し  
やがて

あ…♡  
あ…♡

ダメ…  
もう♡

やの♡  
やの♡

いいね♡  
ちゃんと  
飲んでね♡



妻とヒビ爺は  
同時に果てた





はあ



は…  
はい…

あ…あ…  
ダメ…

あの大きい  
のが私の中に  
…



じゃケーコちゃん  
イクよ♡

ズ  
ズ



せり

そしてヒビ爺は  
そのぶつとい肉棒を  
妻の中に一気にブチ込んだ

あ

い  
い  
♡  
♡

ヒヒ爺が肉棒を  
突く度にアソコから  
本気汁が吹き出た

ボクのちんぽと  
旦那さんの  
どっちがイイの？w

く…  
うっ…

ゴメン…  
修クン…  
私っ…

この人のおちんちんに  
逆らえないっ…

は…♡

て…  
店長の  
ですっ♡



その時ふと  
知り合った  
学生の時から

結婚して4年  
経った今までの  
妻の顔が  
走馬灯のように  
頭をよぎったが

そののどれにも  
当てはまらない  
この彼女の表情から

俺は何故か  
目が離せなかった

やあ

せいのこ

おちんちん  
スゴイ

そして—  
何故か俺は

ゴクッ

この表情が  
今までで一番  
美しいと  
感じてしまった

あーあー  
イクイク

俺が見惚れている  
間にもヒビ爺の  
ピストンは激しさを  
増していき

ひぐひぐ

せろっ

ううう

じゃ  
中に出すよっw

は…♡  
は…♡  
は…♡  
は…♡

やがて

ぐんぐん

男は容赦なく  
俺の愛する妻に  
中出しした

そして肉棒を引き抜くと  
彼女の膣から

俺より遥かに濃い  
精子がドロリと  
溢れ出た



その後も当然  
絶倫である  
ヒヒ爺のセックスは  
続き

イイ♡  
♡です♡

おちん♡  
♡ちん♡  
♡イ♡  
♡イ♡

イ♡  
♡ク♡  
♡イ♡  
♡ク♡  
♡イ♡  
♡ク♡

あ♡  
♡あ♡

イ♡  
♡イ♡  
♡ク♡  
♡ク♡  
♡イ♡  
♡ク♡  
♡イ♡  
♡ク♡

セ♡  
♡ク♡  
♡イ♡  
♡ク♡



何度も妻を  
絶頂させられる  
度に

はあ  
スゴ



あ  
あ



今すぐ動画を消して  
目を背けたいくなるが



心の奥底で  
俺は――

世

の

こ

♡♡♡

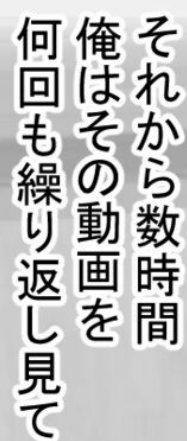
彼女のこの痴態を  
何度も見てみたい

――そう思ってしまった

サ

ニ

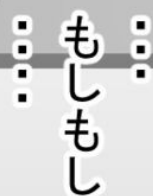
♡



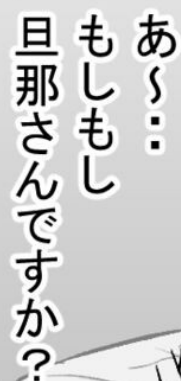
それから数時間  
俺はその動画を  
何回も繰り返し見て



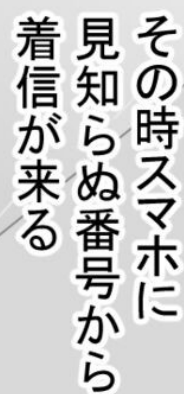
自己最多の  
5回も才ナニをした



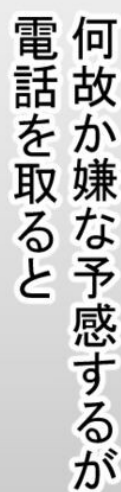
もしもし



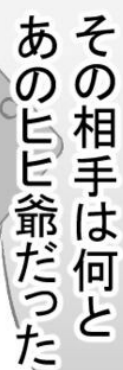
あゝ：  
もしもし  
旦那さんですか？



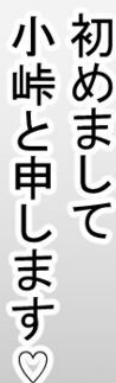
その時スマホに  
見知らぬ番号から  
着信が来る



何故か嫌な予感するが  
電話を取ると



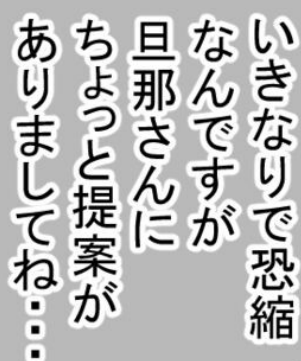
その相手は何と  
あのヒビ爺だった



初めまして  
小峠と申します♡



私の事  
分かりますよね？



いきなりで恐縮  
なんですが  
旦那さんに  
ちよつと提案が  
ありましてね……

続



金珠狼



続 染色妻

その後の地味巨乳妻清水恵子 4

夫婦円満編

合和 1年 5月 1日 星期日

《附录》

● 是人的注意

東京理科大学のインターネットで書かれている記事は、  
 東理資料館の公開には、所蔵の資料に同意書まで記入の連絡を要するらしい。

[illegible]

圖 9-10 的(a)和(b)分別表示在電壓源和電流源激勵下，二端網絡的戴維南等效電路。

1990年12月—1991年12月

此項銷售收入之一部以爲銷售之成本  
此項銷售收入之一部以爲生產之成本，並可爲研究

今年結婚4年目  
になる32歳の  
平凡な  
サラリーマンだ

ついこの間まで  
俺達夫婦の  
関係は円満  
だったのだが

何故なら  
嫁の不倫現場を  
ガッツリ目撃  
してしまった  
からである

俺はその日  
離婚届の前で  
真剣に  
悩んでいた

クソッ……

何で恵ちゃんが  
あんな爺と  
……!?



その時まで  
嫁以外の経験が  
無かった俺は



腹いせに風俗等で  
色んな女を  
抱いてみたが



全く満足感はなく  
ただ虚無感ばかり  
募って行くのだった



そんな感じで  
嫁への愛情は段々と  
薄れていき



ついには  
夫婦の会話も  
最近ほぼゼロに  
なっていた







彼女は見慣れない  
紫の下着を着け  
そこに立っていた



恵ちゃん  
それ…？

は?!  
え!?

その姿に心底  
驚いた俺は

彼女と冷戦中  
なのも忘れ  
思わず  
問いたでした



う…

修くん…

妻はそれに  
答える間もなく  
俺に近寄り



爺との不倫に対して  
であろう弁明を  
始めた

……ごめんなさい  
……

修くんは全然  
悪く無いの

悪いのは本当に  
全部私……

離婚されても  
全然仕方無いと  
思ってる

ただ……  
これだけは言わせて……

本当に私が——  
私が愛してるのは……

修くん唯一人なの

それだけ  
どうしても  
伝えたくて……

……恵ちゃん

そして

俺たち夫婦は  
数か月ぶりに  
唇を重ねたのだった

チュ...

その瞳には  
大粒の涙が  
浮かんでいた

内心途惑いながらも  
彼女の方を見ると

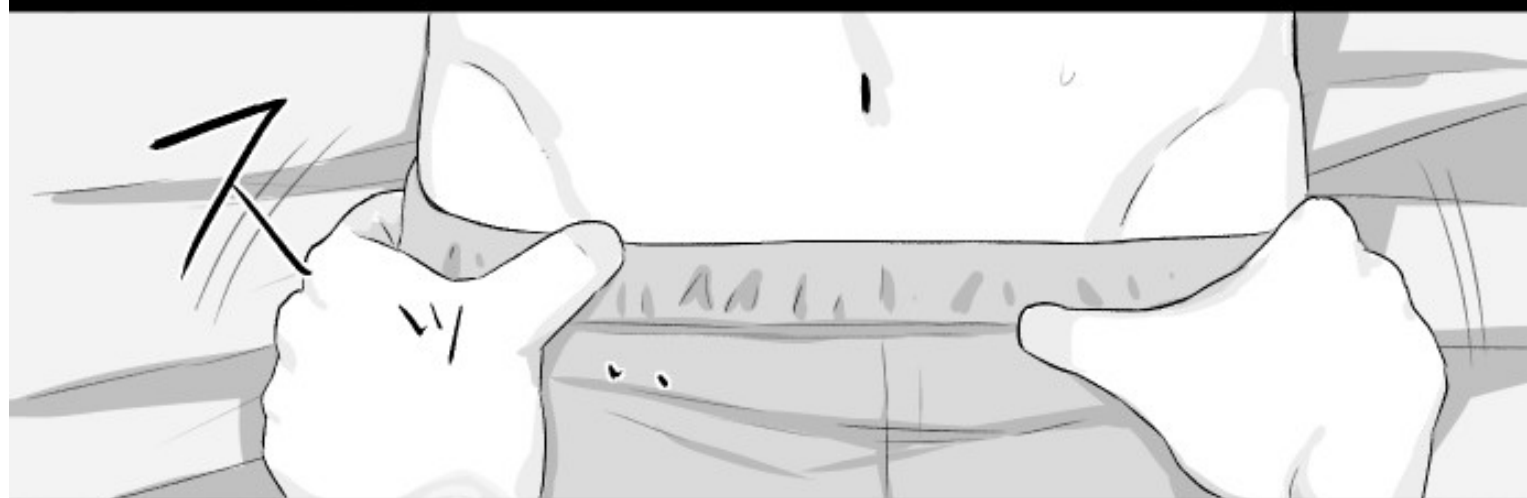
修クン...  
ごめんね...  
私こんな事しか  
できなくて...

この下着も  
喜んでもらえる  
かなって...

そう言って妻は  
俺の寝間着を  
脱がし







そして

彼女は心底嬉しそうに  
俺のチンポを咥えこんだ





勢いあまって  
思わず彼女の口内に  
ブチ撒けてしまった

オ。。

ごめん…今  
ティッシュを…

ゴクン

しかし彼女は  
その精液を

躊躇なく飲み込んで  
しまった

ふふ…

一杯出たね♡

俺はそれを  
嬉しいと思いつつも

ハハハハ

わ…

正直若干  
引いてしまった  
のだった

その後休憩を挟み



俺の希望で

人生初の  
シックスナインをする



その時の彼女の  
まんこは

うわ……

めっちゃ  
濡れてる……

俺とのセックス史上  
一番濡れていた



そして  
俺は彼女を  
満足させるべく

ガムシヤラに  
クニニをした  
のだった



それから  
しばらく

け…  
恵ちゃん

本当に  
良いの？

うん…

生でいいよ♡

ニ  
ッ…



このセックスで

俺が間違いなく  
言える事は

これが俺の人生で  
一番気持ちのいい行為である  
と言う事だ

ツ……

ズニ

ズニ

ズニ

恵ちゃん  
っ……  
俺っ……!

……  
良いよ♡

中で  
出して♡



いっしょに

俺は初めて  
彼女に中出しした

っ……!

せーの……



しばらく  
余韻を楽しんだ後

肉棒を引き抜くと

彼女の性器から  
ドロリと  
精液が溢れ出た

この時彼女は幸せそうに  
俺に微笑みかけた

修クン…  
頑張ったね♡

恵ちゃん…

すごい  
気持ち良かったよ♡

この時にはもう  
不倫の事など  
頭に残っておらず  
彼女と関係を  
改善できたことが  
ただ嬉しかった

ちなみに離婚届は  
彼女に見つかる前に  
破いて捨てた

それから1か月——

ほぼ毎日セックスを  
していた

俺たち夫婦は  
今までの溝を埋める  
かの様に

お互い愛し合い  
間違いなく  
幸せな結婚生活だった

——のだが  
俺はある2つの不安が  
どうしても頭から  
離れなかった

一つは  
これまでの  
セックスで  
彼女を一回も  
絶頂させられ  
なかった事

そして  
もう一つは

妻の不倫相手である  
ヒビ爺の存在だ



一時期本気で  
訴えようと思ったが  
妻の立場を考えると

下手に大事にする  
訳にはいかなかった  
のでそのまま放置  
していた

そんなある休日  
妻が用事で家を空けたので  
俺は自宅のパソコンで  
嫌な予感を感じつつも



例の素人カップルの  
エロ動画投稿サイトを  
覗いてみた

すると  
その予感通り

やっぱり……

例のヒビ爺が投稿した  
であろう



妻の新作エロ動画が  
アップされていた



恵ちゃん…

動画内の彼女は  
例の紫の派手な  
下着を着けていた

最近どーしたの  
ケーコちゃん？

グイ

…

誘っても全然  
来てくれない  
じゃーんw

旦那さんと  
仲直りしたw？

おw

ハニ

やめて下さい  
…

今日だって  
来たくなかった  
けど

あなたが  
来なきゃ  
関係を皆に  
バラすって…



私が愛してるのは  
本当に……  
夫だけなんです……

それが今ようやく  
関係が修復  
できそうなんです

お願いします……  
本当にこれっきりに  
してくれませんか……？

妻の涙ながらの  
俺を思つての  
懇願——

俺も思わず  
泣きそうに  
なってしまう

恵ちゃん……！！

ヒヒ爺は彼女の涙も  
全く意に介さず  
ギン.

だが

ふうん……

ま  
一発やってから  
考えるよ♡

その凶暴な  
肉棒を  
放り出した

ホ

ロニ

！！

ホッラ  
ケーコちゃんの  
大好物

ツ……

久しぶりの  
極大おちんぽ  
だよ♡

ケーコちゃん

ボクのちんぽの  
臭い嗅ぐと

エッチなスイッチ  
入るもんね♡

やせ我慢  
しなくていいよw

やめっ…

う…

ほらw  
もう目が  
トロ〜としてるw

っ…

違っ…



下着脱いで  
四つん這い  
になってw

は...  
い...  
い...

ダメ...

何も  
考えられない  
...

おほw  
ケーコちゃんの  
マンコ凄い  
なってるじゃんw



...  
...  
これで...

良いですか...?



彼女のアソコは  
俺どセックスした  
どんな時よりも  
...



ヒヒ爺のチンポを  
嗅いだだけの方が  
ビチヨビチヨに  
濡れていた



うひょろ♡  
久々のケーコ  
ちゃんのまんこ

トロトロで  
めっちゃ  
美味そう♡

せつ♡

せつ♡

せつ♡

ひゃあ♡

ズズズ...

じゃ  
イタダキまゝす♡

せつ♡

ケーコちゃん  
アナル舐めながら  
まんこホジるの  
好きだったでしょ？

どお？  
気持ち良い？w

せつ♡

グググ...

何でこんなに  
私の弱い所  
的確に当てれるの？

ゼン：♡

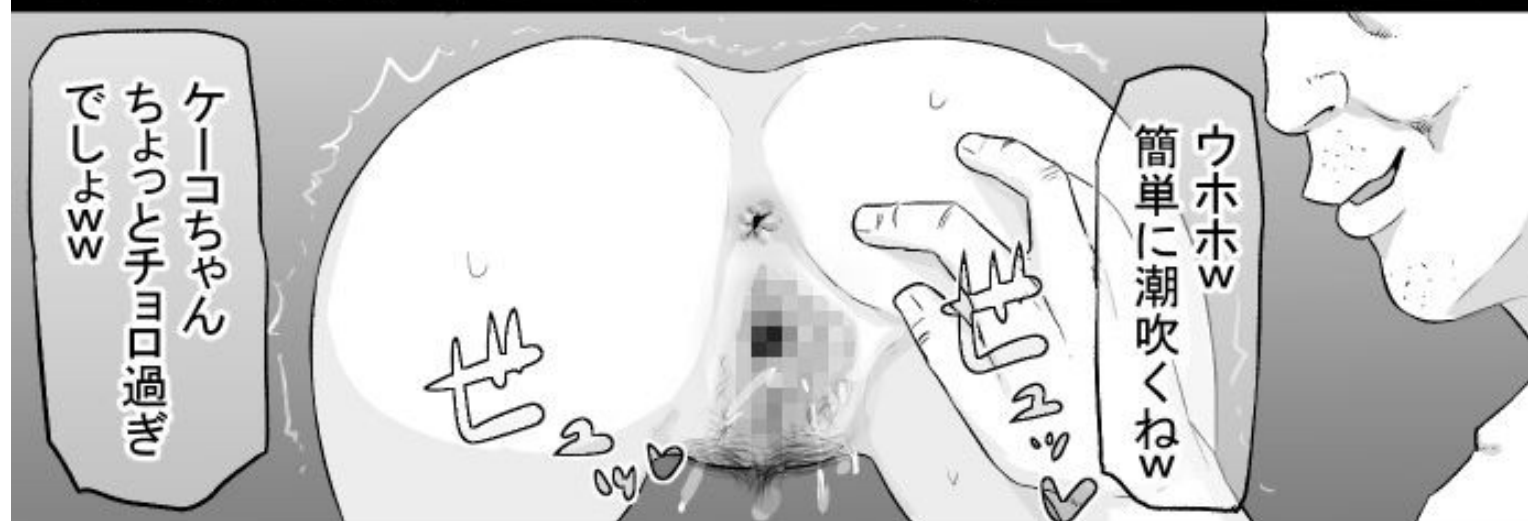
あ：あ：  
修クンと  
全然違う…！！

ありやまだ  
膣内力強いね  
旦那さんに  
イカせてもらって  
ないでしょ？





こうして彼女は  
ヒビ爺の手によって  
簡単に絶頂した



ウホホw  
簡単に潮吹くねw

ケーコちゃん  
ちよつとチヨロ過ぎ  
でしょww



俺が決して  
できなかった  
最愛の妻の絶頂を

いとも簡単に  
実行できるこの  
60近い爺に  
対して俺は

同じ男として  
圧倒的な  
敗北感を感じ  
ゲロを吐きそう  
になった

次はケーコちゃん  
の番ね♡

あ

ほら早くw  
啜えて啜えてw

ゴハッ

ギン

絶頂して更にスイッチの  
入った彼女は

完全な雌の表情で  
ヒヒ爺のチンポを  
啜えた

んっ

ズ

フ

は...あ...

すごいエッチな  
臭い...

ム

やっぱり  
カズ君のと  
全然違う...

パンパンに張って  
脈打ってる...

ム



この時の彼女の  
貌は別人の様に  
色気があった



そしてもう  
挿入が我慢  
できないのか



チンポをしゃぶりながら  
自分のアソコを  
イジリ始めた

すっごい  
ガツツキぶり  
だねw

ケーコちゃん  
そんなに  
溜まってたの？w

ひゅひゅひゅ

ダメ……  
指……  
止まらない……♡



彼女の手の動きは  
快楽を求めるために♡

激しさを増し  
やがて

ジッポ  
ジッポ

あ…♡  
あ…♡

ダメ…  
もう♡

やのいりり…

いいね♡  
ちゃんと  
飲んでねw



妻とヒヒ爺は  
同時に果てた



ヒヒ爺の命令通り  
彼女は跪き

その汚い  
アナルを舐め  
始めた



じゃ  
次はボクの  
アナルね♡

...



妻はアナルを丹念に  
舐めると同時に  
チンポもしごいた

あゝ  
いいね♡

ケーコちゃんの  
アナル舐めしごき  
最高♡



嫉妬で気が狂いそうに  
なりながらも

ギニ...

そのプレイを見て  
人生最大級の  
勃起が止まらなかった



ぐく...

当然そんな  
マニアックな  
事をさせて  
無い俺は

それから  
場面は変わり

じゃあ  
ケーコちゃん

いっしょ♡

修くん…  
本当にゴメン  
なさい…

いっしょ♡

店長の…  
ぶつといチンポを  
…

私のおまんこ  
にブチ込んで  
下さい…♡

ぽあ…♡

妻は蕩けた雌の貌で  
アソコを広げ  
ヒヒ爺のちんぽをねだった

いつもの  
おねだり  
やってみようか♡









その時ふと  
知り合った  
学生の時から

結婚して4年  
経った今までの  
妻の顔が  
走馬灯のように  
頭をよぎったが

そののどれにも  
当てはまらない  
この彼女の表情から

俺は何故か  
目が離せなかった

やあ

せいのこ

おちんちん  
スゴイ

そして—  
何故か俺は

ゴクッ

この表情が  
今までで一番  
美しいと  
感じてしまった

あーあー  
イクイク



俺が見惚れている  
間にもヒビ爺の  
ピストンは激しさを  
増していき

ひぐひぐ

せろっ

ううう

じゃ  
中に出すよっ

は…♡  
はいい…♡

やがて

ズン



男は容赦なく  
俺の愛する妻に  
中出しした

そして肉棒を引き抜くと  
彼女の膣から

俺より遥かに濃い  
精子がドロリと  
溢れ出た

その後も当然  
絶倫である  
ヒヒ爺のセックスは  
続き



何度も妻を  
絶頂させられる  
度に



今すぐ動画を消して  
目を背けたいくなるが





心の奥底で  
俺は――

世

の

こ

♡♡♡

彼女のこの痴態を  
何度も見てみたい

――そう思ってしまった

サ

ハ

♡



それから数時間  
俺はその動画を  
何回も繰り返し見て

自己最多の  
5回もオナニーをした

もしもし

何故か嫌な予感するが  
電話を取ると

その時スマホに見知らぬ番号から着信が来る

ク  
ク  
:

あゝ：  
もしもし  
旦那さんですか？

!?

その相手は何と  
あのヒビ爺だった

初めまして  
小峠と申します♡

私の事  
分かりますよね？

いきなりで恐縮  
なんですが  
旦那さんに  
ちよつと提案が  
ありましてね……

続

金珠狼



続 染色妻

その後の地味巨乳妻清水恵子 4

夫婦円満編









その時まで  
嫁以外の経験が  
無かった俺は



腹いせに風俗等で  
色んな女を  
抱いてみたが



全く満足感はなく  
ただ虚無感ばかり  
募って行くのだった



そんな感じで  
嫁への愛情は段々と  
薄れていき



ついには  
夫婦の会話も  
最近ほぼゼロに  
なっていた



ごちそうさま

嫁と顔を合わせるのも  
流石にしんどくなつて  
きたので

スマホで別居用の  
アパートを寝室で  
検索していると

……  
何……？

あの……  
修くん……

久しぶりに  
嫁が話しかけて  
きたので

俺は少し  
イラつきながら  
振り返った  
すると――

！？

彼女は見慣れない  
紫の下着を着け  
そこに立っていた

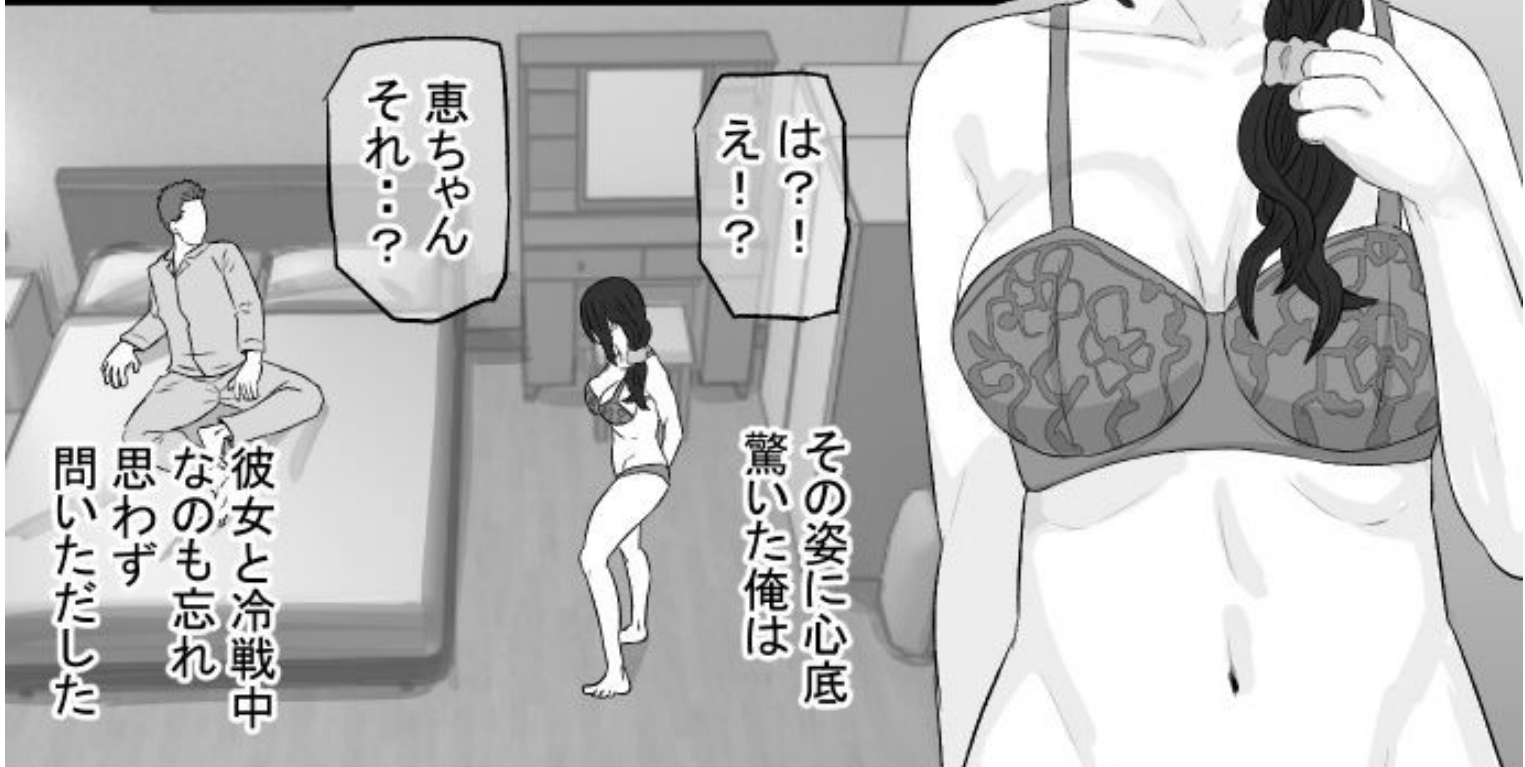


恵ちゃん  
それ…？

は?!  
え!?

その姿に心底  
驚いた俺は

彼女と冷戦中  
なのも忘れ  
思わず  
問いたでした



う…

修くん…

妻はそれに  
答える間もなく  
俺に近寄り



爺との不倫に対して  
であろう弁明を  
始めた

……ごめんなさい  
……

修くんは全然  
悪く無いの

悪いのは本当に  
全部私……

離婚されても  
全然仕方無いと  
思ってる

ただ……  
これだけは言わせて……

本当に私が——  
私が愛してるのは……

修くん唯一人なの

それだけ  
どうしても  
伝えたくて……

……恵ちゃん

そして



俺たち夫婦は  
数か月ぶりに  
唇を重ねたのだった

チュ...

その瞳には  
大粒の涙が  
浮かんでいた

内心途惑いながらも  
彼女の方を見ると

修クン...  
ごめんね...  
私こんな事しか  
できなくて...

この下着も  
喜んでもらえる  
かなって...

そう言って妻は  
俺の寝間着を  
脱がし



俺の乳首を  
責め始めた



この舌使いも  
あのヒビ爺が  
仕込んだかと思うと  
一瞬哀しくなったが

恵ちゃん  
。。。  
い...

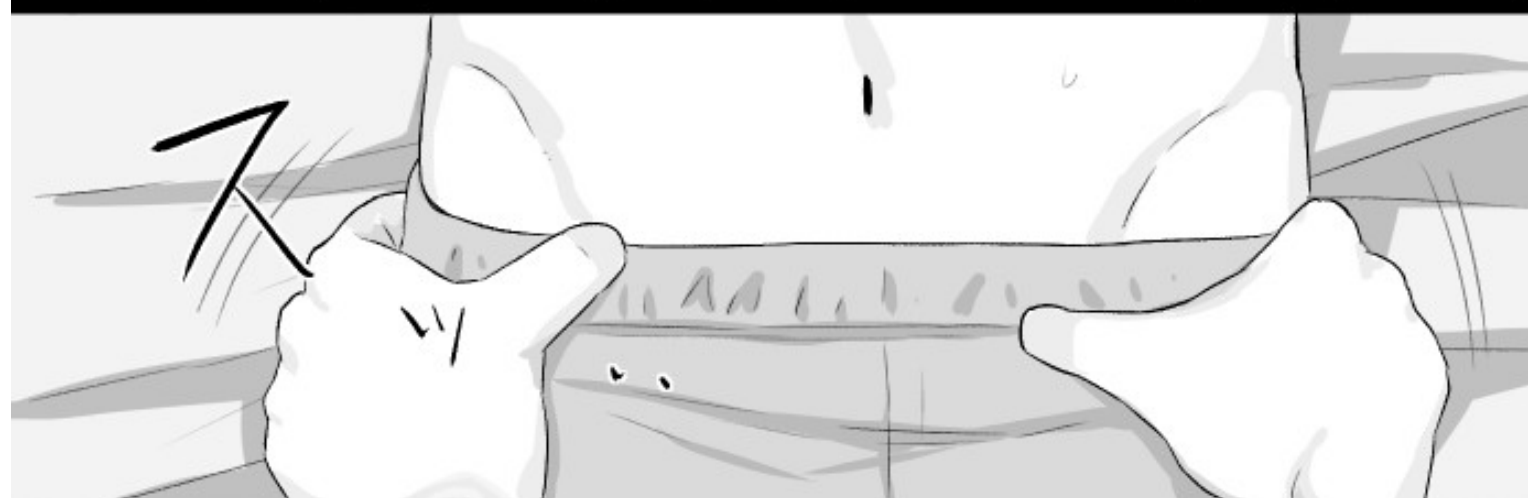


クッ...!!

ワリ..

ワリ..

そんな事を  
一瞬で忘れる位  
その責めは  
刺激的だった



そして

彼女は心底嬉しそうに  
俺のチンポを咥えこんだ





この数か月

ズルルルル...

俺はプロも含め

色んな女性に  
フェラしてもらったが

グイグイ...

おそらく  
あのヒビ爺に  
仕込まれたであろう  
この彼女のフェラが

クッ...

ごめん...  
もう出る...

ゼン...

スッゲ...

一番気持ち良かった

ゼン...

ズルルルル...

グイグイ...

ズルルルル...

グイグイ...

勢いあまって  
思わず彼女の口内に  
ブチ撒けてしまった

オ。。

ごめん…今  
ティッシュを…

ゴクン

しかし彼女は  
その精液を

躊躇なく飲み込んで  
しまった

ふふ…

一杯出たね♡

俺はそれを  
嬉しいと思いつつも

ハハハハ

わ…

正直若干  
引いてしまった  
のだった

その後休憩を挟み

俺の希望で

人生初の  
シックスナインをする



その時の彼女の  
まんこは

うわ...

めっちゃ  
濡れてる...

俺とのセックス史上  
一番濡れていた



そして  
俺は彼女を  
満足させるべく

グン

ガムシヤラに  
クニニをした  
のだった



それから  
しばらく

け…  
恵ちゃん

本当に  
良いの？

うん…

生でいいよ♡







このセックスで

俺が間違いなく  
言える事は

これが俺の人生で  
一番気持ちのいい行為である  
と言う事だ

ツ……

ズニ

ズニ

ズニ

ズニ

ツ……

恵ちゃん  
っ……  
俺っ……!

……  
良いよ♡

中で  
出して♡

いっしょに

俺は初めて  
彼女に中出しした

っ……!

せ……



しばらく  
余韻を楽しんだ後

肉棒を引き抜くと



彼女の性器から  
ドロリと  
精液が溢れ出た

この時彼女は幸せそうに  
俺に微笑みかけた

修クン…  
頑張ったね♡

いふ♡

いふ♡

すごい  
気持ち良かったよ♡

恵ちゃん…

この時にはもう  
不倫の事など  
頭に残っておらず  
彼女と関係を  
改善できたことが  
ただ嬉しかった

ちなみに離婚届は  
彼女に見つかる前に  
破いて捨てた





それから1か月——

俺たち夫婦は  
今までの溝を埋める  
かの様に

ほぼ毎日セックスを  
していた

お互い愛し合い  
間違いなく  
幸せな結婚生活だった

——のだが  
俺はある2つの不安が  
どうしても頭から  
離れなかった

一つは  
これまでの  
セックスで  
彼女を一回も  
絶頂させられ  
なかった事

そして  
もう一つは

妻の不倫相手である  
ヒビ爺の存在だ



一時期本気で  
訴えようと思ったが  
妻の立場を考えると

下手に大事にする  
訳にはいかなかった  
のでそのまま放置  
していた

そんなある休日  
妻が用事で家を空けたので  
俺は自宅のパソコンで  
嫌な予感を感じつつも



例の素人カップルの  
エロ動画投稿サイトを  
覗いてみた

すると  
その予感通り

やっぱり……

例のヒビ爺が投稿した  
であろう



妻の新作エロ動画が  
アップされていた

恵ちゃん…

動画内の彼女は  
例の紫の派手な  
下着を着けていた

最近どーしたの  
ケーコちゃん？

グイ

…

誘っても全然  
来てくれない  
じゃーんw

旦那さんと  
仲直りしたw？

おw

ハニ

やめて下さい  
…

今日だって  
来たくなかった  
けど

あなたが  
来なきゃ  
関係を皆に  
バラすって…



私が愛してるのは  
本当に……  
夫だけなんです……

それが今ようやく  
関係が修復  
できそうなんです

お願いします……  
本当にこれっきりに  
してくれませんか……？

妻の涙ながらの  
俺を思つての  
懇願――

俺も思わず  
泣きそうに  
なってしまう

恵ちゃん……！！

ヒヒ爺は彼女の涙も  
全く意に介さず  
ギン.

ま  
一発やっつてから  
考えるよ♡

その凶暴な  
肉棒を  
放り出した

だが

ふん……



ホッラ  
ケーコちゃんの  
大好物

ツ……

久しぶりの  
極大おちんぽ  
だよ♡

ケーコちゃん

ボクのちんぽの  
臭い嗅ぐと

エッチなスイッチ  
入るもんね♡

やせ我慢  
しなくていいよw

やめっ…

う…

ほらw  
もう目が  
トロ〜としてるw

ハッ♡

っ…

違っ…



下着脱いで  
四つん這い  
になってw

.....  
はい.....

ダメ.....

何も  
考えられない  
.....

おほw  
ケーコちゃんの  
マンコ凄いーと  
なってるじゃんw

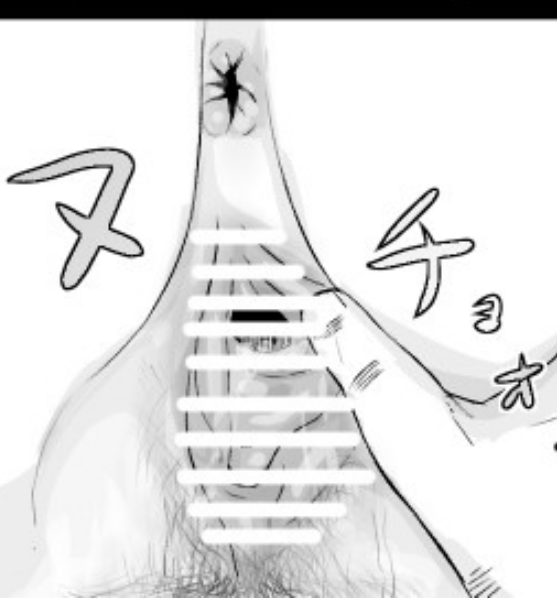


.....  
これで.....

良いですか.....?



彼女のアソコは  
俺どセックスした  
どんな時よりも  
.....♡



ヒヒ爺のチンポを  
嗅いだだけの方が  
ビチヨビチヨに  
濡れていた

うひょろ♡  
久々のケーコ  
ちゃんのまんこ

トロトロで  
めっちゃ  
美味そう♡

せつ♡

せつ♡

せつ♡

ひゃあ♡

ズズ  
ズズ

じゃ  
イタダキまろす♡

せつ♡

ケーコちゃん  
アナル舐めながら  
まんこホジるの  
好きだったでしょ？

どお？  
気持ち良い？w

せつ♡

☆..♡

ググ

何でこんなに  
私の弱い所  
的確に当てれるの？

ゼン：♡

あ：あ：  
修クンと  
全然違う…！！

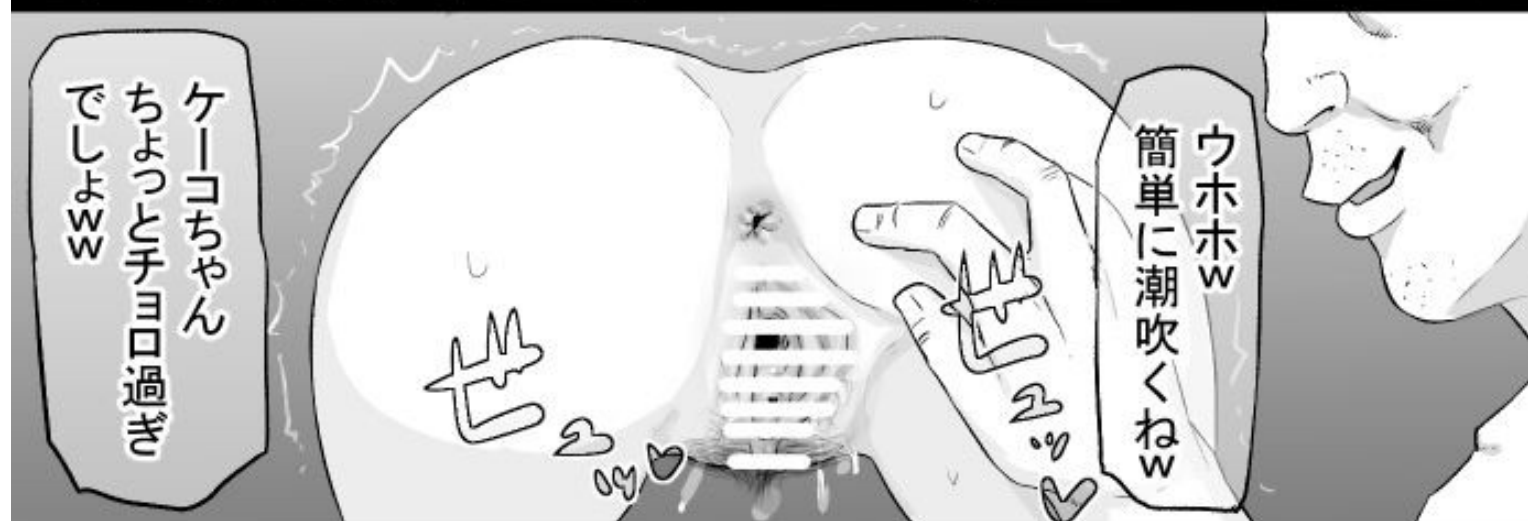
ありやまだ  
膣内力強いね  
旦那さんに  
イカせてもらって  
ないでしょ？







こうして彼女は  
ヒビ爺の手によって  
簡単に絶頂した



ケーコちゃん  
ちよつとチヨロ過ぎ  
でしょww

うほっw  
簡単に潮吹くねw



俺が決して  
できなかった  
最愛の妻の絶頂を

いとも簡単に  
実行できるこの  
60近い爺に  
対して俺は

同じ男として  
圧倒的な  
敗北感を感じ  
ゲロを吐きそう  
になった

次はケーコちゃん  
の番ね♡

あ

ほら早くw  
啜えて啜えてw

ギン

絶頂して更にスイッチの  
入った彼女は

完全な雌の表情で  
ヒヒ爺のチンポを  
啜えた

ん。。

やっぱり  
カズ君のと  
全然違う。。

パンパンに張って  
脈打ってる。。♡

は。。あ。。

すごいエッチな  
臭い。。。。

。。。。

この時の彼女の  
貌は別人の様に  
色気があった



そしてもう  
挿入が我慢  
できないのか

せつ...

せつ...

チンポをしゃぶりながら  
自分のアソコを  
イジリ始めた

チュン♡

チュン♡

すっごい  
ガツツキぶり  
だねw  
ケーコちゃん  
そんなに  
溜まってたの?w

ひんひん♡

ダメ...  
指...  
止まらない...♡

ズググ♡

ググ♡





彼女の手の動きは  
快楽を求めるために♡

激しさを増し  
やがて

あ…♡  
あ…♡

ダメ…  
もう♡

やのいっ♡

いいね♡  
ちゃんと  
飲んでねw



妻とヒヒ爺は  
同時に果てた





15 6



は…  
はい…

じゃケーコちゃん  
イクよ♡

あ…あ…  
ダメ…

あの大きい  
のが私の中に  
…



せり

そしてヒヒ爺は  
そのぶつとい肉棒を  
妻の中に一気にブチ込んだ

あーい  
あーい  
あーい





ボクのちんぽと  
旦那さんの  
どっちがイイの？w

く…  
う…

ヒヒ爺が肉棒を  
突く度にアソコから  
本気汁が吹き出た



ゴメン…  
修クン…  
私…

この人のおちんちんに  
逆らえないっ…

は…♡

て…  
店長の  
です♡



その時ふと  
知り合った  
学生の時から

結婚して4年  
経った今までの  
妻の顔が  
走馬灯のように  
頭をよぎったが

そののどれにも  
当てはまらない  
この彼女の表情から

俺は何故か  
目が離せなかった

やあ

せいのこ

おちんちん  
スゴイ

そして—  
何故か俺は

ゴク

この表情が  
今までで一番  
美しいと  
感じてしまった

あーあー  
イクイク

俺が見惚れている  
間にもヒビ爺の  
ピストンは激しさを  
増していき

ひぐひぐ

せろっ

ううう

じゃ  
中に出すよっ

は…♡  
はいい…♡

やがて

男は容赦なく  
俺の愛する妻に  
中出しした

そして肉棒を引き抜くと  
彼女の膣から

俺より遥かに濃い  
精子がドロリと  
溢れ出た



その後も当然  
絶倫である  
ヒヒ爺のセックスは  
続き



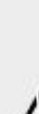


何度も妻を  
絶頂させられる  
度に



今すぐ動画を消して  
目を背けたいくなるが

then:



心の奥底で  
俺は――

世

の

こ

♡♡♡

彼女のこの痴態を  
何度も見てみたい  
――そう思ってしまった

世

の

こ



それから数時間  
俺はその動画を  
何回も繰り返し見て

自己最多の  
5回もオナニーをした

もしもし

何故か嫌な予感するが  
電話を取ると

その時スマホに見知らぬ番号から着信が来る

ク  
ク  
:

あゝ：  
もしもし  
旦那さんですか？

!?

その相手は何と  
あのヒビ爺だった

初めまして  
小峠と申します♡

私の事  
分かりますよね？

いきなりで恐縮  
なんですが  
旦那さんに  
ちよつと提案が  
ありましてね……

続